

高等学校2年生 保健体育科学習指導案

1 単元名 「 健康を支える環境づくり 」 (医療サービスとその活用)

2 単元について

健康の保持増進には、個人の力だけではなく、個人を取り巻く自然環境や社会の制度、活動などが深く関わっている。したがって、全ての人が健康に生きていくためには、環境を整備しそれを活用する上で、課題を発見し、その解決を目指した活用を通して、環境と健康、食品と健康、保健・医療制度及び地域の保健・医療機関、様々な保健活動や社会的対策、健康に関する環境づくりと社会参加などについて、理解を深めるとともに、これらの課題の解決に向けて思考・判断・表現することができるようにする必要がある。

このため、本内容は、人間の生活や産業活動が自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすことがあり、それらを防ぐためには、汚染の防止及び改善の対策を取る必要があること、また、環境衛生活動は、学校や地域の環境を健康に適したものとするよう基準が設定され、それに基づいて行われていること、食品の安全性を確保するよう基準が設定され、それに基づいて行われていること、保健・医療制度や地域の保健・医療機関を適切に利用することが重要であり、その活用に関わる方法を学ぶとともに、医薬品は有効性や安全性が審査されており、正しく利用することが有効であること、我が国や世界では、健康課題に対応して様々な保健活動や社会的対策が行われていること、健康に関する環境づくりが重要であり、積極的な社会参加が人々の健康につながること、適切な情報の活用が有効であることなどを中心として構成している。

3 単元の目標

知識・技能	健康を支える環境づくりについて、健康の保持増進に関する課題の解決に役立つ環境、食品の保健、及び我が国の保健医療制度や機関の適切な活用のための基礎的な事項及びそれらと生活とのかかわりを理解することができるようとする。
思考力・判断力・表現力等	健康を支える環境づくりについて、社会生活における健康の保持増進に関わる課題の解決を目指して、知識を活用した学習課題などにより、科学的に考え、判断し、それらを表現できるようにする。
学びに向かう力・人間性	健康を支える環境づくりについて、社会生活における健康の保持増進に関わる課題について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようとする。

--	--

4 生徒の実態と指導観

学校（学級）のあらゆる活動において、活発な生徒が多く、良好な友好関係にあり、互いに助け合うことができる。稀に授業と関係のないことを行う生徒や保健に対して関心のない生徒も見られるが、グループワークには積極的である。発問や問い合わせ後に決まった生徒が発言しがちであり、私語が増えるのが懸念されるため、ガヤガヤした空気感で集中力を切らさないように手を挙げて発言するよう指導していきたい。また授業で生徒が自らの健康の維持増進についての関心を高め、今後医療機関を利用する際にどのように制度が適用されているのか自覚できるようにしていきたい。

ロールプレイングを用いて生徒が自分ごととして考え方議論し、課題意識を持って実際の生活に繋いでいけるようにする。

5 単元及び学習活動に即した評価規準

健康安全への知識・技能	健康安全についての思考力・判断力・表現力等	健康・安全について、主体的に学習する態度
<p>1. 自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康に関する環境づくりが重要であることについて理解している。</p> <p>2. 一人一人が健康に関心をもち、健康を支える適切な環境づくりに積極的に参加していくことが必要であり、そのことが自分を含めた世界の人々の健康の保持増進につながることについて理解している。その際、それらを実現するには、健康に関する適切な情報を選択・収集して、正しく分析・評価し、活用・発信することが有効であることについて触れている。</p>	<p>1. 健康を支える環境づくりにおける事象や情報などについて、健康に関する原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題をまとめている。</p> <p>2. 安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、それらを表現している。</p>	<p>1. 健康を支える環境づくりについて、現状をしり、課題解決に向けて積極的に調べようとしている。</p>

6 指導と評価の計画

時間	主な学習内容	知識	思・判・表	学び
1	大気汚染と健康			
2	水質汚濁、土壤汚染と健康			
3	環境と健康にかかわる対策			
4	ごみの処理と上下水道の整備			

5	食品の安全性			
6	食品衛生にかかわる活動			
7	保健サービスとその活用 1. 医療の供給 2. 医療保険の仕組み 1. さまざまな医療機関 2. かかりつけ医 3. 医療サービスの活用		○	
8	医療サービスとその活用			
9	医薬品の制度とその活用			
10	さまざまな保健活動や社会的対策			
11	健康に関する環境づくりと社会参加			

7 本時の展開

① 本時の目標

- わが国における医療保険のしくみについて説明できる。
- さまざまな医療機関の役割について説明できる。

② 展開

段	学習活動【学習内容】	指導上の留意点
導入8分	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶・出欠確認 ・本時のめあてを確認する。 <p>1. 【医療サービスについて知る。】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初めにワークシートを配る。 ・医療サービスについて説明する。 ・医療サービスとは医療機関に医療関係従事者が提供する医療活動のことであることだと説明する。 ・サービスとは無料、心遣い、気遣いと考えがちであるが、医療サービスは有償であるということを伝える。
展開35分	<p>2. 【自由診療と保険診療のしくみと違いを知る。】</p> <p>・グループで話し合い。</p> <p>・自分の予想したものに挙手する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの具体例を提示し、問い合わせながら自由診療と保険診療の線引きが曖昧であることを説明する。 ・確実に抑えてほしいポイントはワークシートに書かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">発問1：美容整形の後遺症は保険診療に入るか考えよう</div>

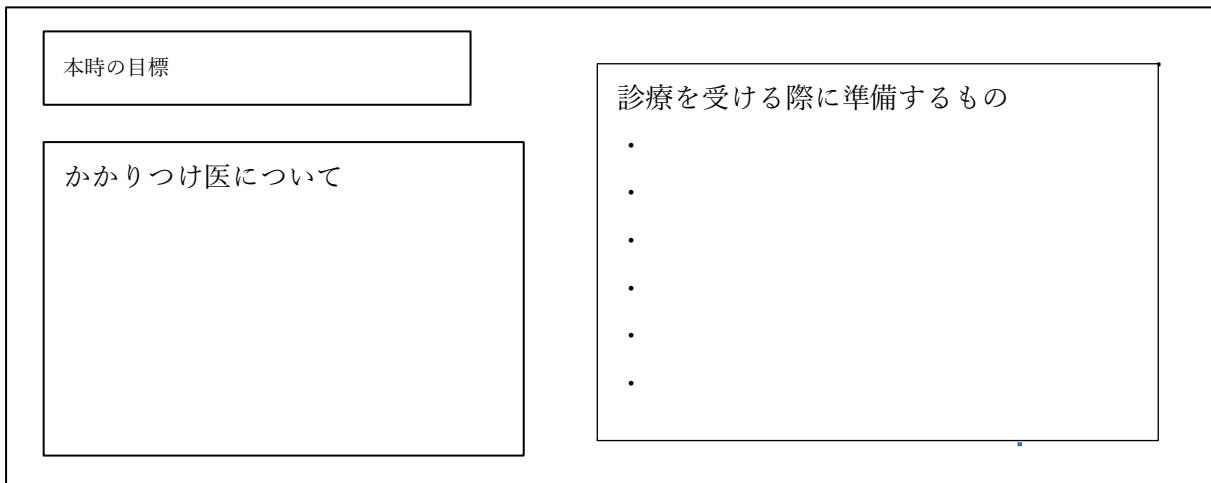
<p>・選択肢→①入る②入らない③曖昧</p> <p>予想される生徒の反応： 入る、入らない、曖昧、どちらとも言えない、分からない</p>	<p>人の考えを深める。</p> <p>・つまずきを補助発問化したり、浅い知識には揺さぶりをかけたりする。</p>
<p>3. 【献血について知る。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・血液は現在の技術では人工的に作れないことを知り、献血の重要性について知る。 ・支えられるだけでなく、私たち自身が医療を支える側でもあることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人工血液の話を交え興味関心を誘い、献血の大切さを説明する。 ・医療機関、医療従事者が私たちの健康を支えてくれている一方で、献血等で私たち自身が医療を支える側であることも伝える。
<p>4. 【国民皆保険制度について知る。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国民皆保険は日本が誇る社会保障（国家が国民の生活を保障する制度）であることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国民皆保険制度について説明する。 ・資料を黒板に貼る。 ・見えづらい生徒はワークシートにある資料①を見るように促す。 ・日本ではすべての国民が公的医療保険に加入することになっていること、公的医療保険とは、国民皆保険や、企業の従事者などに向けた健康保険、75歳以上の人及び65歳～74歳で一定の障害の状態にある人向けた後期高齢者医療制度などがあることを説明する。 ・6歳までは2割、7歳～69歳は3割、70歳～74歳は2割、75歳以上は1割、が自己負担となることを表を用いて説明する。
<p>5. 【医療費控除について知る。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間の医療費が10万円を超えた場合に利用できる所得控除で、基本的には確定申告書と医療費控除の明細表を税務署に提出するだけということを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の意味が理解できていないとつまずくポイントになると考えられるため、取りこぼしのないように曖昧な知識や浅い知識、浅い理解には揺さぶりをかける補助発問等を行い、確実な知識を培わせる。具体例を提示し、他人事ではなく、身近な問題であることを伝える。
<p>6. 【かかりつけ医について知る。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心身の不調を感じた際はまずはかかりつけ医に相談すること、かかりつけ医は国策であること、かかりつけ医は地域や家庭の健康相談や管理を担っているため、未病の改善に効果的とい 	

<p>うことを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> かかりつけ医と大きな病院の連携について知る。 <p>7. 【医療サービスを活用する際に気を付けることについて知る。】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 中学校でも行った内容であることを伝える。 図を用いて説明する。(ワークシート資料②) 説明の最後にかかりつけ医の特徴を簡単にまとめて伝え、ワークシートに記入させる。
<p>発問2：医療機関を受診する際に気をつけたり、準備したりするものはあるか 考え方</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 個人で考える。 ワークシートに書き出す。 グループで考える。 グループの意見を発表する。 <p>予想される生徒の反応： マスク、メモ、症状のメモ等</p>	<ul style="list-style-type: none"> グループに一枚紙を配り、グループごとに意見をまとめて紙に書かせる。 各グループの代表者一人が意見を発表する。
<p>8. 【インフォームド・コンセント、セカンド・オピニオンについて知る。】</p> <ul style="list-style-type: none"> 7で学んだことを踏まえながら、言葉の意味と実践的な活用方法を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の意見をふまえて、気を付けるべきことを伝える。 インフォームド・コンセントとは、「医療行為を受ける前に、医師・看護師から医療行為について、十分な説明を受け、それに対して患者は疑問があれば解決し、内容について十分納得した上で、その医療行為に同意すること」だと説明する。 セカンド・オピニオンとは、症状や治療法について、主治医以外の医師の意見を聞き、参考にすること」だと説明する。
<p>9. 【医師にかかる10箇条を知る。】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ロールプレイング法を用いて医師にかかる10箇条を生徒に問いかげながら説明する。 生徒の意見に新しいものがあったら10箇条に加える。 ロールプレイングは今日の授業のまとめとして、学んできた知識の理解度をチェック(生徒へ

	<p>の問い合わせ等) ながら進める。</p> <p>◆安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、それらを表現している。(思考・判断・表現)</p> <p><A 評価></p> <p>安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、詳しく積極的にそれらを表現している。</p> <p><C 評価></p> <p>安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考えられず、それらを表現できない。</p> <p><努力を有する生徒への手立て></p> <p>普段、医療機関を受診する際に気を付けていることを思い出せるような問い合わせや興味・関心のあると思われる例を多くだし、机上指導を積極的に行う。</p>	
ま と め 7 分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の授業内容を振り返る。 ・本時の授業の感想、本時の目標は達成できたかをワークシートに書く。 ・挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の授業内容を簡潔にまとめる。 ・本時の授業の全体の肯定的な評価や感想を伝える。 ・生徒が書き終えたのを確認してからワークシートを後ろから回させ、回収する。 ・次回の授業内容を簡単に説明し、予告しておく。

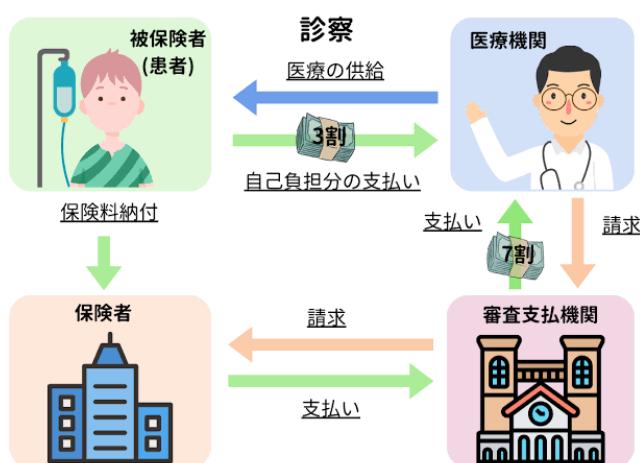
8 板書計画

本時の目標	国民皆保険について
医療サービス（自由診療と保険診療の違いと仕組み、献血）について	

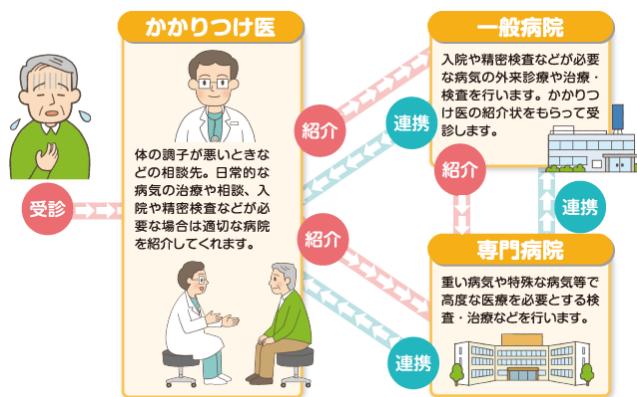


9 資料

・ワークシート資料①



・ワークシート資料②かかりつけ医をもちましょう



4. 健康を支える環境づくり ワークシート

年 月 日

08 医療サービスとその活用

年 組 名前

* 必要だと思ったことは余白にメモを取りましょう。

【医療サービス】

・自由診療と保険診療の違いとしくみ

- ポイント①
- ポイント②

？ 美容整形の後遺症は保険診療に入るか考えよう。

→個人の考え方

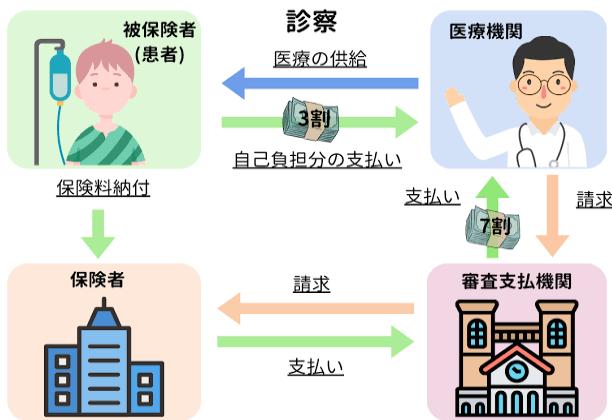
→グループの考え方

→答え

【医療保険制度】

- ・国民皆保険について

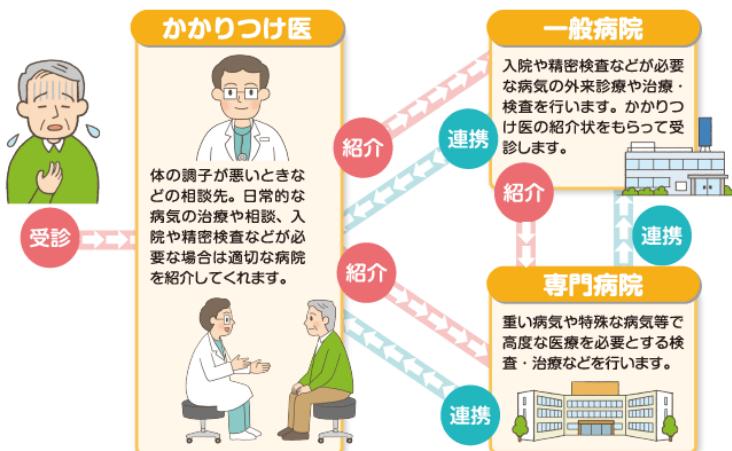
資料①国民皆保険制度



【かかりつけ医】

かかりつけ医の特徴

資料②かかりつけ医のしくみ



？ 診療を受ける際に準備するものは？



【感想】
